

# 1 - 1 北海道，日高山脈南部及びえりも岬周辺における最近の地震活動について

## Recent Seismic Activity in the Southern Part of Hokkaido

北海道大学理学部浦河地震観測所  
Urakawa Seismological Observatory,  
Faculty of Science,  
Hokkaido University

北大浦河地震観測所（KMU）ではKMUからみてP-S時間が15.0秒未満に相当する地震について震源決定を行っている。ごく最近の1974年1月から12月までの1年間，日高山脈南部及びえりも岬周辺の海域で起きた地震の震源分布を第1図，第2図に示す。またKMUからみてP-S時間が60秒未満の験測地震数の月別頻度分布（期間：1967, July～1974, Dec.）を第3図に，0.0～9.9秒，10.0～19.9秒の験測地震数の旬別頻度分布（期間：1973, Jan.～1974, Dec.）を第4図にそれぞれ示す。そして浦河及び広尾における有感地震回数（1974年）を第1表に示す。

それらによれば最近の1年間顕著な大きい地震は少なく，強いて言えば1968年十勝沖地震以後次第に験測地震数は減る傾向にあり，最近に至っては十勝沖地震の発生前の頃の験測数にまで少なくなっているようである。

ちなみに浦河で震度Vを感じさせた地震とは苫小牧付近のやや深い地震（11月9日6時23分頃， $42^{\circ}59'N$ ， $141^{\circ}80'E$ ， $h = 106\text{km}$ ， $m_b - 6.0^{1)}$ ）である。

つぎに最近では珍しい浦河付近のごく浅い地震（ $h \leq 40\text{ km}$ ， $m_b \geq 4.0$ ）のリストを第2表に示す。

それらの余震と思われるものも幾つか記録され，その震源域の分布はほぼ日高山脈に平行で，かつ地表にはほぼ垂直な板状を呈した。試みにこの地域付近の地質案内図<sup>2)</sup>参照すれば静内と浦河との間にある断層の分布（例えば三石断層）と大体一致する。

一方日高山脈東側，釧路沖の浅い地震（広尾海脚付近<sup>3)</sup>）も幾つか記録された。そして1970年1月25日，日高山脈南部地震の震源域付近にも浅い地震が散発的に起きている。そして少なくとも最近の地震活動を見る限りでは，日高山脈両側に浅い地震が起きてその間の山脈直下には殆んど無いようである。以上ごく最近の日高山脈南部及びえりも岬周辺の地震活動について述べたが，震源要素の決定に際して大草の観測所の記録の他に気象庁の地震観測管署と火山観測所の記録も読みとった。

（高波 鉄夫）

参 考 文 献

- 1) 北大理学部 ( 本谷義信 ), 1975, 地震予知連絡会会報, 13, 4 - 6
- 2) 三石町教育委員会理科部会, 1970 三石の地質案内
- 3) 海上保安庁水路部, 1974, 地震予知連絡会会報, 11, 24 - 30.

第 1 表 浦河, 広尾における有感地震回数  
( 1974, 札幌管区気象台調 )

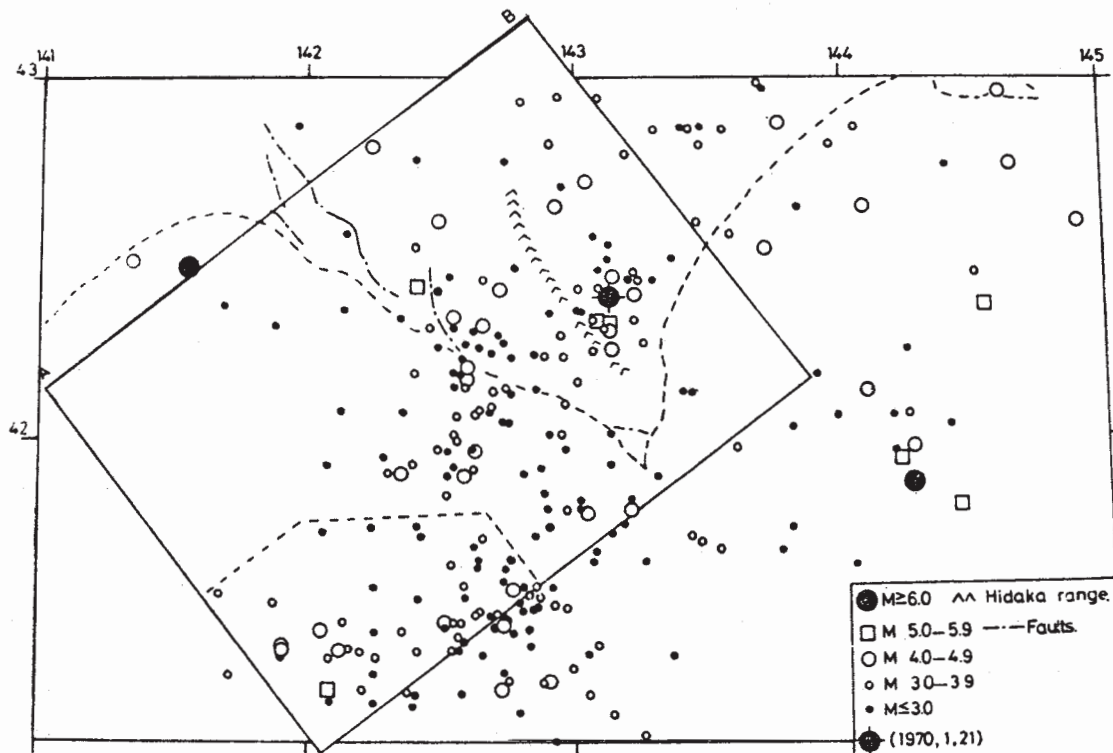
Table 1 Numbers of felt earthquakes at Urakawa and Hiroo. (1974, after S.M.O)

震度	I	II	III	IV	V
浦 河	26	11	12	0	1
広 尾	29	20	9	1	0

第 2 表 浦河付近の最近の浅い地震 ( 1974,  $m_b \geq 4.0$  )

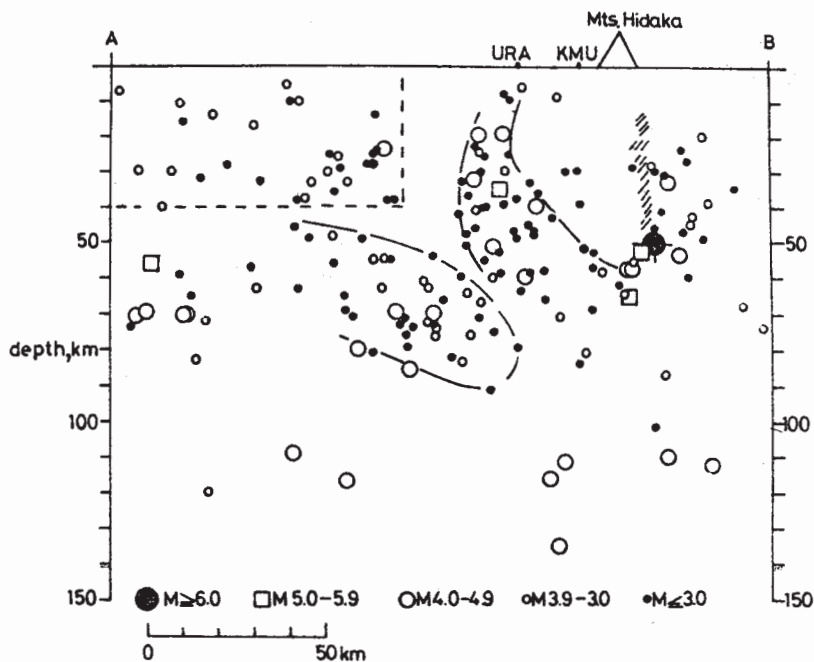
Table 2 List of recent shallow earthquakes near Urakawa. (1974,  $m_b \geq 4.0$ )

M	Date			Lat. N	Long. E	Depth (km)	$m_b$
	D	h	m				
7	20	02	31	42° 11.72'	142° 36.00'	20	4.2
7	20	03	44	42° 20.87'	142° 33.68'	20	4.7
7	27	01	00	42° 10.10'	142° 37.01'	34	4.4
10	20	20	43	42° 26.95'	142° 26.47'	26	5.2



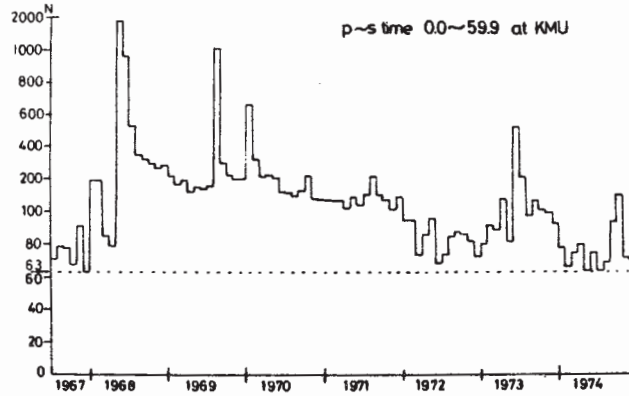
第1図 日高山脈及びえりも岬周辺に起きた地震の震央分布 (1974).  
 (KMU からみて P - S 時間 ≤ 15.0 秒の地震のみ)

Fig. 1 Epicentral distribution in the Hidaka range and around the Cape of Erimo. (The whole earthquakes with P-S interval 15.0 sec and less at KMU.)



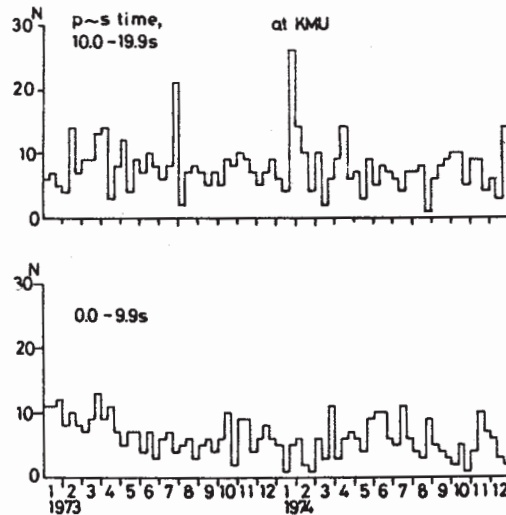
第2図 日高山脈南部及びえりも岬周辺に起きた地震の垂直分布  
 (第1図, 長方形内の地震のみを示す。斜線部は1970年1月21日の日高山脈南部地震の震源域)

Fig. 2 Vertical distribution of earthquakes in a rectangular area in Fig. 1. Oblique lines show the focal region for Hidaka sanmyaku nanbu zishin (1970 JAN.21).



第3図 P - S時間 60秒未満 ( KMU ) の験測地震数の月別頻度分布  
( 1967年7月～1974年12月 )

Fig. 3 Number of earthquakes with P-S interval 59.9 sec and less at KMU in every monthly interval. (1967 JULY ~ 1974 DEC.)



第4図 P - S時間 0～9.9秒および10.0～19.9秒 ( KMU ) の験測地震数の旬別頻度分布  
( 1973年1月～1974年12月 )

Fig. 4 Number of earthquakes with P-S intervals 9.9 sec and less, and from 10.0 sec through 19.9 sec at KMU in every ten-days interval. (1973 JAN. ~ 1974 DEC.)